

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「子どもと芸術Ⅱ」		担当教員	明 石 現	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講 時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標 前期「専門総合演習」で見出した課題に対し、実践的芸術表現及び体験を通し、保育に於ける芸術の大切さ、具体的方法を探求し、かつ理解し説明できることを到達目標とする。</p> <p>■授業の概要 前期「専門総合演習」で見出した子どもの育みや社会への芸術的関与を実践的な芸術体験、具体的には手話合唱を軸とした「福祉の音プロジェクト」による演奏活動、水俣でのゼミ合宿、フィールドワーク等を通して、個々の学びの定着を図る。</p> <p>■授業計画 第1回 「福祉の音プロジェクト」(手話合唱) 第2回 水俣ゼミ合宿① 歴史 第3回 水俣ゼミ合宿② フィールドワーク 第4回 水俣ゼミ合宿③ まとめ 第5回 フィールドワーク①事前学習 第6回 フィールドワーク① 第7回 フィールドワーク①振り返り 第8回 フィールドワーク②事前学習 第9回 フィールドワーク② 第10回 フィールドワーク②振り返り 第12回 卒業レポート作成・まとめ① 第13回 卒業レポート作成・まとめ② 第14回 卒業レポート作成・まとめ③ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習 ・指示した課題を期限内に行うこと。 ・フィールドワークにおける事前学習等、円滑なグループワークの準備、自己練習に取り組むこと。</p> <p>■評価方法 ・授業への参加、取り組み姿勢 — 60% ・卒業レポート — 40%</p>							
参考文献	特になし。			特記事項	【ゼミ合宿について】 ・水俣ゼミ合宿5万円程度。その他フィールドワークの入館料、交通費等、各自負担。 【課題等へのフィードバック方法】 ゼミ合宿やフィールドワークを経て卒業レポートを作成し、それに対して教員がコメントを加えます。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「様々な経験を通して考える私の自己表現と保育観」		担当教員	池谷潤子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内の子育て支援の場で、子ども達と表現遊び、わらべうたなどの活動を展開できる。 ・子どもたちと保護者と一緒に楽しむ活動を展開する保育者としての姿勢を身につける。 ・ゼミでの活動、フィールドワーク、実習における自分の表現方法、表現力の変化について振り返るレポートを作成し、学修の成果としてまとめることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>前期の「うたとおはなしのひろば」を実践した経験をいかして、後期の卒業演習では学内の子育て支援育ちあいのひろば「たいむ」で親子で取り組める活動（造形的なあそび、クッキング、コーナー遊びによる展開など）を月に一回、ゼミ生が計画、実施、全員での評価、改善を行ない、次のグループでの実施に活かしていきます。</p> <p>また、お互いに協力、サポートできるのか、自分だったらどのようにしたか、などを常に考えながらふりかえます。</p> <p>卒業レポートは、ゼミでの活動、フィールドワーク、実習における自分の姿（表現方法、表現力の変化）をふりかえることで、学修の成果としてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 保育実習のふりかえり 第2回 後期の取り組みについて 第3回 ひろばの準備① 第4回 ひろばの準備② 第5回 ひろばの実施 第6回 ひろばのふりかえり（評価、改善） 第7回 ひろばの準備③ 第8回 ひろばの準備④ 第9回 ひろばの実施 第10回 ひろばのふりかえり（評価、改善） 第11回 ひろばの準備⑤ 第12回 ひろばの準備⑥ 第13回 ひろばの実施、ふりかえり（評価、改善） 第14回 学びの成果発表会① 準備 第15回 学びの成果発表会② 発表</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内で出された課題について、活動案を考え、準備すること ・子育て支援での実践について整理し、まとめること <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（ワークショップ、グループ活動への積極的な取り組みや発言内容） — 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	なし			特記事項	子どもたちとの活動は火曜日を予定しているため、実施日には1限から4限までの連続した授業展開になります。また行事では金曜日にも活動します。 【課題等のフィードバック方法】 グループ発表についてはコメントします。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「遊びと保育者のかかわりについて考えるⅡ」		担当教員	泉 澤 文 子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について問いつづけ、検討することができる。 保育環境（物的環境・人的環境）について、理解し説明できる。 遊びを理解し、保育者として遊びにかかわっていくことができる。 遊びを通しての子どもの姿や保育者として遊びへのかかわりを記録し、それを自分なりに「振り返る」ことができる。 ■授業の概要 <p>遊びと遊びに対する保育者のかかわりについて考えていきます。前期「専門総合演習」での学びを受けて、保育現場の見学や保育参加等を通して、遊びの環境をつくったり子どもの遊びを理解したり、保育者としてのかかわりを深めていきます。最終的には、自分の解決すべき課題について卒業レポートにまとめます。</p> <p>受講者同士の話し合いを重視します。積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。</p> ■授業計画 <p>第1回 フィールドワークへ向けて／学びの計画づくり 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク振り返り 第4回 フィールドワーク② 第5回 フィールドワーク振り返り 第6回 フィールドワーク③ 第7回 フィールドワーク振り返り 第8回 フィールドワーク④ 第9回 フィールドワーク振り返り 第10回 フィールドワーク⑤ 第11回 フィールドワーク振り返り 第12回 フィールドワーク⑥ 第13回 フィールドワーク振り返り 第14回 レポート発表・まとめ 第15回 学びの成果発表会</p> ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> 授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。 フィールドに出た際に、保育環境や子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。 授業後に、その日の学びを整理すること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの状況 — 20% 授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート — 40% 卒業レポート — 40% 							
参考文献	「遊びを中心とした保育」萌文書林 「子どもも保育者も笑顔になる！ 遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「遊び保育の実践」ななみ書房 「保育援助論」萌文書林			特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 【課題等のフィードバック方法】 レポート等にはコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「保育者の社会的役割と保育者となる“私”の在りようを考える」		担当教員	伊藤 恵里子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークとその後の振り返りを通して設定した課題について検討し、卒業レポートに書き表すことができる。 ・保育者の社会的役割について検討することができる。 ・保育者となる“私”の在りよう—保育者として子どもに何を願うのか、子どもとどう向き合いたいのかについて検討することができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業は、受講生それぞれが設定した課題について検討すること、またそれを通して、保育者が社会的にどのような役割をもち何が求められているのか、保育者となる“私”は子どもに何を願いどう向き合うのかについて考えることをねらいとしている。保育現場等でのフィールドワークとその振り返りを軸に授業を進めるが、フィールドワーク先は受講生それぞれが設定した課題に基づいて選択することとする。フィールドワーク後にはレポートを作成し、それを基に受講生同士で振り返りを行い、それぞれの課題について検討を深めていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション、追求する課題の確認 第2回 フィールドワーク1 第3回 フィールドワークの振り返り1-1 第4回 フィールドワークの振り返り1-2 第5回 フィールドワーク2 第6回 フィールドワークの振り返り2-1 第7回 フィールドワークの振り返り2-2 第8回 フィールドワーク3 第9回 フィールドワークの振り返り3-1 第10回 フィールドワークの振り返り3-2 第11回 卒業レポート中間発表会1 第12回 卒業レポート中間発表会2 第13回 まとめ1（保育者の社会的役割について） 第14回 まとめ2（保育者となる“私”の在りようについて） 第15回 卒業レポート発表会 - 「学びの成果発表会」</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク後にレポートを作成し、期限内に提出すること。 ・学んだことを整理し、課題を明確にして次のフィールドワークに臨むこと。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークの取り組み姿勢 — 30% ・フィールドワークの振り返りにおける積極性や発言内容 — 20% ・フィールドワーク後のレポート — 10% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	授業中に適宜示す。			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 フィールドワーク後のレポートは、確認しコメントを書き加え返却する。 卒業レポートは、「学びの成果発表会」終了後にコメントを書き加え返却する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「表現する自分を探究する」		担当教員	大澤 ちづる	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・専門総合演習で見出した自己課題についてフィールドワークを行い、分析、検討することができる。 ・音楽劇の実演を通して、豊かな感性や表現力を身につける。 ・自分の表現方法、表現力の変化について振り返るとともに、自らの関心や問題意識を踏まえた「表現」や「保育」に関するレポートを作成し、学修の成果としてまとめることができる。 ■授業の概要 <p>後期では、前期に引き続き「声・歌う」をテーマに表現する自分を探求します。1つの音楽劇を仲間と一緒に実践、振り返りを繰り返しながら、自らが表現者となる体験を重ねていきます。自分の表現を探求しながら、自身の内面の変化にも焦点をあてていきたいと考えています。保育者が試行錯誤しながら環境を構成し、子どもと向き合い、その日の保育を省察する、これらの保育の営みは、本ゼミのねらいとして「きいて、みて、やって、考える」という学びの循環と通ずるものがあります。ゼミ活動を通して、自己学習する力や自分への自信につなげて欲しいと思います。希望があれば、特色ある園への見学も行います。</p> ■授業計画 <ul style="list-style-type: none"> 第1回 夏に取り組んだ自己課題の発表① 第2回 夏に取り組んだ自己課題の発表② 第3回 表現活動①（音楽劇全体をつかむ） 第4回 表現活動①を振り返る 第5回 表現活動②（それぞれの役を理解し、表現を考える） 第6回 表現活動②を振り返る 第7回 表現活動③（全体の流れを確認する） 第8回 表現活動③を振り返る 第9回 フィールドワーク（稽古場を体験する） 第10回 卒業レポートの作成① 第11回 卒業レポートの作成② 第12回 卒業レポートも作成③ 第13回 学びの成果発表会① 企画 第14回 学びの成果発表会② 準備 第15回 学びの成果発表会③ 発表 ■準備学習 <ul style="list-style-type: none"> ・次回授業で取り扱う指示された文献等を事前に読み込んでおくこと。 ・音楽表現の実践については、与えられた課題を自己練習すること。 ■評価方法 <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み（フィールドワークの準備、実践内容）— 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	ワークショップ参加費として1万円程度の自己負担を予定していますが、受講生の人数により変動しますので、ご了承ください。 【課題等へのフィードバック方法】 レポートにはコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「他者理解を試みる～当事者とかかわる・当事者になる～」		担当教員	大村 あかね	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
授業概要 ■到達目標 他者への想像力を持ち、当事者としての自分を語れる大人になっていくために、本授業では「当事者」というキーワードを立て、以下のことを目指します。 1. 様々な現場に赴き、そこに居る当事者の語りに謙虚に耳を傾け、その体験世界を知った上で自分の考えを表明することが出来る。 2. 自ら設定したテーマについて探求し、他者の探求していることに関心を持ち、プレゼンテーション、意見交換をすることが出来る。 3. フィールドワークを通して、様々な当事者の置かれている状況や、普段感じている事、考えていることを知り、他者理解の枠組みを広げる。 ■授業の概要 学生が自ら関心を持った現場に、できれば継続して赴き、自らもそこでの活動に参加しながら、そこに居る人々の思いや考えに触れるフィールドワークをします。 学生の関心次第で、どのような形でフィールドワークを行うことになるかは変わってきますが、自らもその現場に赴いて、他者の気持ちになってみる経験をするを重視します。 ■授業計画 第1回 オリエンテーション この授業のねらいについて 第2回 卒業レポートのテーマの明確化 研究計画 FWの希望話し合い 第3回 インタビューの基本について 第4回 フィールドワーク①準備 第5回 フィールドワーク①当事者とかかわる 第6回 フィールドワーク①ふりかえり 第7回 フィールドワーク②準備 第8回 フィールドワーク②当事者と関わる 第9回 フィールドワーク②ふりかえり 第10回 フィールドワーク③準備 第11回 フィールドワーク③当事者と関わる 第12回 フィールドワーク③ふりかえり 第13回 これまでのゼミ全体での取り組みのまとめ 第14回 これまでの個人の取り組みのまとめ 第15回 学びの成果発表会 ■準備学習 ・あらかじめ提示された参考資料は、読んで理解した上で臨むこと。 ・提示された課題に取り組み、期限までに提出すること。 ■評価方法 ・話し合いへの積極的な参加 — 20% ・フィールドワークふりかえりレポート — 20% ・フィールドワークへのとりくみ、グループ活動での協力姿勢 — 20% ・卒業レポート（提出は必須） — 40%							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	・フィールドワークにかかる費用は自己負担となります。 ・卒業レポート、その他レポート等は、全てPCで作成すること。 【課題等へのフィードバック方法】 ・フィールドワークの事前事後学習にかんする提出物については、必要に応じてコメントを記入し、学生に返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「個人を尊重する人間関係を探るⅡ」		担当教員	金子重紀	
ディプロマポリシーとの関連性	②・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの人間関係を振り返ることができる。 ・社会に出たときの人間関係を自分なりに構築する準備をすることができる。 ・個人を尊重する社会のあり方を考えることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>担当教員は、1年次に憲法の学習で個人の尊重を基軸に講義してきた。しかし、「個人」が「尊重」に基づく人間関係あるいは社会の在り方について、私たちは実現できていない。特に情報化社会の中で、個人と個人の関係、社会と個人の関係はより複雑になり、個人を尊重することがより危機に瀕しているとさえ言える。社会に出る前に、個人を尊重するとはどういうことであるかをできるだけ深く考えておくことは、生きていくうえでの一つの柱になると考えている。卒業演習では、専門総合演習を踏まえ、個人を尊重し合う人間関係とはどういうものかを考えていく。さらに、その関係の中での個人のあり方、他社に対する見方や対応の仕方を考えていく。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 専門総合演習の振り返り 第2回 改めて自分史を振り返る。(1) 第3回 改めて自分史を振り返る。(2) 第4回 改めて自分史を振り返る。(3) 第5回 現在の社会における人間関係の特徴を探る。(1) 第6回 現在の社会における人間関係の特徴を探る。(2) 第7回 理想の人間関係を考える。(1) 第8回 理想の人間関係を考える。(2) 第9回 理想の人間関係を考える。(3) 第10回 職場と人間関係 (1) 第11回 職場と人間関係 (2) 第12回 職場と人間関係 (3) 第13回 受講者の人間関係を振り返る。(1) 第14回 受講者の人間関係を振り返る。(2) 第15回 まとめ・社会に出る君たちへ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎授業後に学んだことを確認します。次回の授業までに確認しておく。 ・各単元ごとに学んだことを振り返る。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業での取り組み — 40% ・小レポート — 20% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	随時紹介します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の中で、教員並びに学生の個人のプライバシーにかかわる情報が開示されることが想定されます。授業の中で知り得た個人情報を絶対に外部に流さないこと。これに違反した場合は、単位を認めない。 ・フィールドワークに出ることも検討しています。その場合は、これに要する要する費用は自己負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「病気・障害のある子どもの発達について考えるⅡ」		担当教員	久保 瑠子	
ディプロマポリシーとの関連性	①・③・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料配布			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病気・障害のある子どもの発達を知ることを通して、子どもの発達の多様性について柔軟に考察できる。 ・病気・障害のある子どもの発達を支える（病棟）保育士の役割を知ることを通して、保育士という職業の専門性について改めて考え、自らの職業選択につなげる。 ・卒業レポートを執筆する。 <p>■授業の概要</p> <p>専門総合演習から引き続き、病院や療育施設での保育ボランティアを行います（後期のボランティア先はゼミ生と相談しながら決定します）。病気・障害のある子どもの遊びや発達、それを支える（病棟）保育士の役割を知ることを通して、乳幼児期における遊びの重要性、そして保育士という職業の専門性について改めて考え、職業選択につなげていきます。また、授業を行う中で発見した課題をより深く追及する為に、関連する図書・映像を見ます。そして、最終的に自らが選んだテーマについて卒業レポートを執筆します。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 オリエンテーション 卒業レポートについて 第2回 卒業レポートのテーマの選考 第3回 病院・療育施設における保育ボランティア① 第4回 振り返り（レポート読み合わせ）① 第5回 振り返り（レポート読み合わせ）② 第6回 病院・療育施設における保育ボランティア② 第7回 振り返り（レポート読み合わせ）① 第8回 振り返り（レポート読み合わせ）② 第9回 卒業レポートに向けた課題の確認① 第10回 卒業レポートに向けた課題の確認② 第11回 卒業レポートに向けた課題の確認③ 第12回 病気は子どもの発達に影響するのか（まとめ①） 第13回 病気は子どもの発達に影響するのか（まとめ②） 第14回 ゼミ内での卒業レポートの発表 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育ボランティアでは、「ねらい」を持って臨むこと。 ・保育ボランティア終了後、レポートを期限内に提出すること。 ・積極的にレポートの読み合わせに参加すること。 ・卒業レポートのテーマ選考に向けて、図書・映像・ワークショップ等のツールを積極的に使い、自らの課題を明確にすること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育ボランティアへの参加とレポートの内容 — 30% ・討論、レポートの読み合わせへの積極的な参加 — 30% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	授業中に適宜示します。			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外の時間に保育ボランティアに行く可能性があります。 ・病院・療育施設への交通費・ワークショップ等への参加費は、個人負担となります。 <p>【課題等のフィードバック方法】 レポートにはコメントを書き加え返却します。</p>		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「あそびの展開を捉え共有するⅡ」		担当教員	古賀琢也	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・④		担当形態	単独			
テキスト	必要に応じて資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 ・身近な素材を用いた遊びの展開を子どもの姿から捉え、他者と共有できる。 ・自分なりのテーマに関して問いを立て、探求することができる。 ・探求したテーマや課題をまとめ、わかりやすい表現で発表することができる。							
■授業の概要 身近な素材を用いた造形遊びの中で子どもたちがどのように素材に興味を持ち、遊びを展開をしていくか、前期に学んだことを踏まえ、遊びの展開を捉えていく。 実際の子どもの姿を基にWeb図・ドキュメンテーションを作成することで、教材研究をするとともに、子ども理解を深めていく。							
■授業計画 第1回 前期、実習から自分なりの問い、テーマを考える 第2回 素材について学ぶ 第3回 フィールドワーク① 第4回 フィールドワークの振り返り①-1 第5回 フィールドワークの振り返り①-2 第6回 振り返りの共有 第7回 フィールドワーク② 第8回 フィールドワークの振り返り②-1 第9回 フィールドワークの振り返り②-2 第10回 振り返りの共有 第11回 レポートの読み合わせ① 第12回 卒業レポートの作成・まとめ① 第13回 卒業レポートの作成・まとめ② 第14回 発表準備・内容の検討 第15回 学びの成果発表会							
■準備学習 ・授業に際し、指定された資料がある場合は読み、考えをまとめてくること ・フィールドノートや調べたこと、学んだことを整理しておく							
■評価方法 ・フィールドワークへの取り組み、協力姿勢 — 20% ・フィールドワークの振り返りレポート — 20% ・振り返りの話し合いへの積極的な参加 — 20% ・卒業レポート — 40%							
参考文献	「好奇心が育む学びの世界」風鳴舎 「造形あそびー“体験”が感性を育む」風鳴舎			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 レポート等にはコメントを加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「カリキュラム論実践演習」		担当教員	小久保 圭一郎	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	授業内で適宜指示する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム論に関する文献を精読し、その内容について説明できる。 ・カリキュラム論に関する文献の内容について、他者と議論できる。 ・カリキュラムに関するレジュメやスライドを作成し、模擬授業を実践できる。 ・文献精読、他者との議論、模擬授業における自らの課題を発見する。 <p>■授業の概要</p> <p>本演習では、保育カリキュラムに関する文献を精読し内容を充分理解した上でレジュメやスライドを作成し、受講生による「模擬授業」を展開することを目指します。模擬授業展開のためには、まず保育カリキュラムに関する文献に書かれている内容を理解していなければなりません。その理解した内容について、受講生自身が保育者養成校に対して「より学びに資する」授業を展開するのです。それは「受講生に対する敬意」をどれだけ授業におけるメタ・メッセージに込められるかにかかっています。本演習の目指すところは、つまりそういうことなのです。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 「保育の基本と計画」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第2回 「指導計画の種類と役割」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第3回 「0、1、2歳児を中心とした保育における計画の考え方」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第4回 「3、4、5歳児を中心とした保育における計画の考え方」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第5回 「小学校における計画との関係」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第6回 「保育における計画の変遷」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第7回 「幼稚園4歳児における日案から週案の作成」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第8回 「保育所3歳児における日案から週案の作成」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第9回 「教育課程の見直し」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第10回 「保育課程の見直し」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第11回 「0、1歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第12回 「2歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第13回 「3歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第14回 「4、5歳児の指導計画の実際」を理解し、内容に関する模擬授業を展開する</p> <p>第15回 演習における学びの成果を発表する</p> <p>■準備学習</p> <p>保育課程／教育課程論に関する文献を精読し、次回の演習までに内容を説明できるようにしておく。</p> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習課題 — 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	特になし。			特記事項	【課題等のフィードバック方法】 レポート等にはコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「家族理解のためのアセスメント 応用編」		担当教員	佐藤隆司	
ディプロマポリシーとの関連性	③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介。 必要に応じて資料配布。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
講義概要 ■到達目標 1. 専門総合演習の基礎知識を応用して複雑な家族のジェノグラムの描き方を習得する。 2. 三世代以上の家族の縦と横の関係に注目して構造的な問題を読み解く視点を習得する。 3. 家族問題解決のためのツールとケースカンファレンスの方法などを理解して実務に活用する。 ■授業の概要 現在の家族問題は家族像の多様化に伴って非常に複雑困難化しており、複雑な家族を視覚化することにより問題の背景を掘り下げる。 基本は繰り返し、繰り返し事例検討して参加者一人一人の意見を尊重して家族理解の視点を拡充する。 また、実際の家族援助には、具体的、実効的、実践的、実務的技術を要するため、家族問題の整理（アセスメント）の方法と支援方法などを具体化して援助に活用する。 ■授業計画 第1回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討① 第2回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討② 第3回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討③ 第4回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討④ 第5回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討⑤ 第6回 事例（虐待、非行、親の問題行動、夫婦・家族関係など）検討⑥ 第7回 フィールドワーク① 祖父母、親世代の理解 第8回 フィールドワーク② 祖父母、親世代の理解 第9回 ケースカンファレンスの実際① 第10回 ケースカンファレンスの実際② 第11回 ケースカンファレンスの実際③ 第12回 ケースカンファレンスの実際④ 第13回 卒業レポート① 第14回 卒業レポート② 第15回 学びの成果発表会のための整理 ■準備学習 前回授業の復習と次回授業の予習。 「分からない」は「(何が) 分からない」と明確化して授業に取り組むこととする。 ■評価方法 ・授業参加（授業中・施設見学などの意欲・態度） — 40% ・卒業レポート（提出期限厳守） — 40% ・課題（提出期限厳守） — 20%							
参考文献	厚生労働省雇用均等・児童家庭局「児童相談所運営指針」平成28年9月29日改正版 厚生労働省雇用均等・児童家庭局「子ども虐待対応の手引き」平成25年8月改正版 M・マクゴールドリック＋R・ガートン＋S・シェレンバーガー著／石川元＋佐野祐華＋劉イーリン訳『ジェノグラム（家系図）の臨床』ミネルヴァ書房、2009年 早稲一男「対人援助職のためのジェノグラム入門 家族援助と相談援助に役立つツールの活かし方」中央法規、2016年			特記事項	【留意事項】 ・一部、画像、DVDなどを題材にディスカッションするため積極的発言を期待する。 ・フィールドワークの交通費などは自己負担。 ・私語、飲食、化粧、途中退室、電子機器使用などは禁止。 【課題等へのフィードバック方法】 ・適宜レポートの内容に関してコメントする。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「からだから学ぶ：関わる、動く、創る」		担当教員	田 中 葵	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜資料を配布する。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実践や文献を通してからだについて学び、自分の見解を持ってその意義を述べるができる。 ・人との関係性の中で、共に表現し合う身体について理解し、グループで討議できる。 ・専門総合演習で見出した関心や課題を深め、自分のテーマについて論じることができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、学内の子育て支援施設「育ちあいの広場 たいむ」や知的障がい者支援施設「まあるい広場」に赴き、子どもや障がいを持った方と関わりながら、人と共に動き関わることによってつくられる身体を見つめていきます。これらの体験をふりかえりながら、人と関わる時の身体知について自分の言葉で語れること、そこから得た視点により自分の目的や課題に向けて取り組むことを目指します。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 前期のふりかえり、後期に向けてのオリエンテーション 第2回 人と関わる身体について考える：コンタクト・インプロヴィゼーション 第3回 フィールドワークに向けた事前準備 第4回 フィールドワーク（1）まあるい広場 第5回 フィールドワークのふりかえり 第6回 フィールドワークに向けた事前準備 第7回 フィールドワーク（2）たいむ 第8回 フィールドワークのふりかえり 第9回 今までの活動のふりかえり 第10回 卒業レポート作成及びそれに向けた課題について 第11回 各々の課題に向けた検討 第12回 卒業レポートの作成及び個別面談（1） 第13回 卒業レポートの作成及び個別面談（2） 第14回 各卒業レポートの発表 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークや活動毎にレポートを提出すること。 ・活動に向けた自己研鑽、グループでの打ち合わせ及び練習をすること。 ・卒業レポートを執筆すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内及びフィールドワークのレポート — 20% ・授業での取り組み（話し合いや作品創作時の積極的な参加と発言） — 40% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	竹内敏晴「からだ語ることば」評論社、1982等、随時紹介する。			特記事項	学外学習に伴う交通費及び参加費用は自己負担となる。 【課題等へのフィードバック方法】 提出されたレポートはコメントをする。また、グループでも共有する。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「外国にルーツをもつこどもⅡ」		担当教員	鶴田真二	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	適宜紹介します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他者の話に耳を傾けることができる。 ・他者の立場から物事を考えることができる。 ・理想とする社会について自分の考えを持つことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>本授業では、2種類のフィールドワークを実施し、外国にルーツをもつこどもと関わります。具体的には、フィールドワークA（前期と同じ）として、外国人の家庭を訪問します。またフィールドワークBとして、外国にルーツをもつこどもへの学習支援活動に参加します。これらのフィールドワークを通して考えたことを整理し、「理想とする社会」について自分の考えを卒業レポートとしてまとめます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 フィールドワーク事前準備（1） 第2回 フィールドワーク事前準備（2） 第3回 フィールドワークA（1）実施 第4回 フィールドワークA（1）ふりかえり 第5回 フィールドワークB（1）実施 第6回 フィールドワークB（1）ふりかえり 第7回 フィールドワークA（2）実施 第8回 フィールドワークA（2）ふりかえり 第9回 フィールドワークB（2）実施 第10回 フィールドワークB（2）ふりかえり 第11回 フィールドワークA（3）実施 第12回 フィールドワークA（3）ふりかえり 第13回 フィールドワークB（3）実施 第14回 フィールドワークB（3）ふりかえり 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）で考えたことを自分で整理します。 ・毎フィールドワーク後にレポートを作成し、ふりかえりで用います。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワーク（事前準備、実施、ふりかえり）での取り組み — 60% ・卒業レポート — 40% 							
参考文献	随時紹介します			特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドワークABは各3回の実施を予定していますが、先方の都合等により回数が増減する、日程変更あるいは中止する場合があります。 ・フィールドワークに要する費用は自己負担となります。 <p>【課題等へのフィードバック方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートは確認し返却します。 		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							

ナンバリング	B⑥02	科目名	卒業演習 「遊びと環境について考えるⅡ」		担当教員	由田 新	
ディプロマポリシーとの関連性	①・②・③・④		担当形態	単独			
テキスト	資料を適宜用意します。			単位数 授業形態	2単位 演習	開講時期	後期
<p>講義概要</p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の課題について問いつづけ、検討することができる。 環境を保育の方法として用いるということを理解し、自分なりに環境構成を読み取ったり、作りだすことができる。 保育者としての人的環境としてはたらく姿勢をもつ。 意図を持ってあそびにかかわることについての理解と姿勢をもつ。 自分のあそびへのかかわりを記録し、それを自分なりに「ふりかえる」ことができる。 <p>■授業の概要</p> <p>前期「専門総合演習」に引き続き、遊びと保育環境について考えます。遊びに対する保育者の環境を通じた間接的な援助（環境をつくる・自ら環境となること）を中心に、保育者の直接的な援助も含めて具体的に学びます。保育現場の見学・保育参加等を通して保育環境を保育の方法として利用するというについての理解を深めていきます。まとめとして、ゼミのテーマと関係したところで、自分の解決すべき課題について卒業レポートを作成します。</p> <p>受講者同士の話し合いを重視します。授業時間外の活動もありますので、それも含めて積極的に取り組む姿勢をもつことを望みます。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 フィールドワークへ向けて／学びの計画づくり 第2回 フィールドワーク① 第3回 フィールドワーク振り返り 第4回 フィールドワーク② 第5回 フィールドワーク振り返り 第6回 フィールドワーク③ 第7回 フィールドワーク振り返り 第8回 フィールドワーク④ 第9回 フィールドワーク振り返り 第10回 フィールドワーク⑤ 第11回 フィールドワーク振り返り 第12回 フィールドワーク⑥ 第13回 フィールドワーク振り返り 第14回 レポート発表・まとめ 第15回 学びの成果発表会</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業に際し、指定された資料を読み、考えをまとめてくること。 フィールドに出た際に、子どもの遊びへのかかわりのエピソードをまとめてくること。 授業後に、その日の学びを整理すること。 <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの状況 — 20% 授業内での話し合いでの発言内容・授業内のレポート — 40% 卒業レポート — 40% 							
参考文献	「子どもも保育者も笑顔になる！遊び保育のための実践ワーク」萌文書林 「遊びを中心とした保育」萌文書林 「遊び保育の実践」ななみ書房			特記事項	フィールドワークにかかる費用等は個人負担となります。 【課題等へのフィードバック方法】 レポート等には、必要に応じてコメントを書き加え返却します。		
卒業・免許状・資格との関連	卒業必修			幼保			
実務経験のある教員等による授業内容							